

コーポリアルタイム訪問WS

～ドラマを演じるカラダを磨け～

人と人のコミュニケーションの9割以上は言葉以外のもので行われていると言われていて、中でも視覚情報は半分以上の割合を占めているので、目に見える表現がとても大切だということがわかります。舞台上で演じる時も言葉だけではなく、自分の身体で伝える方法を知ること、表現の幅を大きく広げることができます。tarinainanikaのコーポリアルタイムWSでは、20世紀フランス演劇界の巨匠であり、近代マイムの父と称されるエティエンヌ・ドゥクルー（1898-1991）が構築した役者のための舞台芸術「コーポリアルタイム」の実技と座学をベースに、身体表現の文法を中高生向けにわかりやすくお伝えします。役者の本質である「身体」を使って「演技」をするためのノウハウを様々な角度から体験し、実践的な演技術を習得していきましょう。

カラダで演じるためのラーニングポイント

<p>1 重さのイリュージョン</p> 	<p>重さとドラマの関係性</p> <p>重さを表現することが、劇的な表現につながることを体験し、様々な動作においてドラマを表現できる能力を培う。</p>	<p>2 姿勢のつくりかた</p> 	<p>カラダの分節化</p> <p>身体の各部位をコントロールして組み合わせる能力を培い、明確な印象を与える姿勢を作ることができるようにする。</p>	<p>3 動作のつくりかた</p> 	<p>行為の分節化</p> <p>動作や身振りを分割してみることで、それぞれの分節の意図を理解し、一連の流れとして演技を組み立てることに役立てる。</p>
<p>重さを演じる力</p>		<p>身体をデザインする力</p>		<p>動作に目的や意図を与える力</p>	
<p>4 空間のつかいかた</p> 	<p>空間とカラダの関係性</p> <p>演技をする空間と身体の関係性が演劇的表現に不可欠な要因であることを体験し、その知識を自分の演技に活かすノウハウを学ぶ。</p>	<p>5 演技のリズム</p> 	<p>動作の質感と速度</p> <p>演技にドラマ性を与える動きのリズムを学び、身振りや動作の質感、力感、速度に変化を与えて、伝えるメッセージを変える。</p>	<p>6 移動のしかた</p> 	<p>歩行とステップ</p> <p>空間内を移動する様々な歩行やステップを学び、それらの特徴を把握することで、移動を用いた演技ができるようにする。</p>
<p>身体の向き、高さ、位置を選ぶ力</p>		<p>リズムを変化させる力</p>		<p>歩行をコントロールする力</p>	
<p>7 即興で演じる</p> 	<p>なにをどうする？</p> <p>テーマに沿った表現を発展させる過程を即興を通じて体験し、自由に想像力を働かせながら、明確な目的を伴った演技を導く。</p>	<p>8 作品のつくりかた</p> 	<p>創作プロセス</p> <p>ディバイジングの手法を用いて、セリフや戯曲にとらわれず、カラダを基点とした舞台作品をゼロから組み立てる過程を体験する。</p>	<p>9 マイム作品を演じる</p> 	<p>レポートリー演習</p> <p>コーポリアルタイムの演目に挑戦する中で、カラダを使った演技を洗練させる意義について理解を深めながら、実演能力を高める。</p>
<p>瞬発力と想像力</p>		<p>理想を形にする力</p>		<p>演技を磨く力</p>	
<p>10 行為のポエトリー</p> 	<p>演技の様式化</p> <p>日常のリアルな所作や身振りを純化または拡大化する方法を学び、演技にスタイルを与えて、詩的で象徴的な表現を生み出す。</p>	<p>11 演技のカテゴリー</p> 	<p>目的ごとの演じ分け</p> <p>演じる対象と内容によって、身体的な特徴を変化させることを学び、演技の選択肢を増やし、変幻自在に演じられる能力を培う。</p>	<p>12 関係のつくりかた</p> 	<p>ドラマの因果律</p> <p>演技の構成要素AとBの間に因果関係を見出し、リズムやフォームを用いて、対立や協調などの関係性を意図的に作り出す。</p>
<p>演技にスタイルを与える力</p>		<p>多彩な演技力</p>		<p>比較、対比する力</p>	
<p>13 流れのつくりかた</p> 	<p>移り変わりの美学</p> <p>AからBへの移り変わりの仕方を学ぶ。演技や場面が移り変わる過程を発展させて、途切れることのないまとまりのある表現を作る。</p>	<p>14 テーマの置き換え</p> 	<p>主題と変奏</p> <p>ある所作や動作を別のスタイルに置き換えて演じる方法を学ぶ。大きさ、リズム、抵抗の度合いなどを変化させて応用する。</p>	<p>15 小道具のつかいかた</p> 	<p>モノとカラダ</p> <p>舞台上で使用する衣装や小道具を装飾として用いるのではなく、身体表現の可能性を広げ、豊かな演技を導くツールとして用いる。</p>
<p>表現にまとまりを持たせる力</p>		<p>応用力</p>		<p>モノで表現する力</p>	
<p>16 ことばのつかいかた</p> 	<p>言葉と動き</p> <p>身体表現と言葉を組み合わせることで、言葉と身体表現の役割や用途の違いを理解し、両者のバランスを考えて演じることを促す。</p>	<p>17 カラダの文法</p> 	<p>ドラマの力学と骨組み</p> <p>体系的に構築された身体表現の文法を学ぶ座学。演技の組み立て方、テクニックの有効性、演劇の効果について理解を深める。</p>	<p>18 思考するカラダ</p> 	<p>歴史的背景と思想</p> <p>コーポリアルタイム芸術が誕生した経緯とその思想を学び、アーティストとして表現活動に携わることについて考えを深める。</p>
<p>言葉の活用力</p>		<p>演じるカラダを理解する力</p>		<p>思索する力</p>	